

職業としての政治家

「学芸員」発言の背景



「学芸員ががんだ」と発言した大臣が批判を受けて発言を撤回した。撤回すれば良いというわけではないはずだ。口を拭えば無罪放免というのが今の政府の基本的なスタンスらしい。

「がん」というたとえにも問題があるが、学芸員を侮辱する発言の背後にある考え方の方により深刻な問題がある。

政府は、学芸員という専門性の高い職業の役割をどう考えているのだろうか。観光振興によって地域の活性化を図る目的に沿って事業をすることの妨げになるという理由は、専門職への尊敬の念を欠いている。

どうしてなにもかも経済成長につながるかとか、お金になるかなどの観点から有用性を問題にするのだろうか。

少し前に、文部科学省が大学における人文科学の教育・研究を見直すべきだ、これらの学問分野は実用性に乏しく、社会に有用ではないと、大学に学部を再編を促したのも、根っこは同じように見える。

すぐにお金になるかどうかが優先されれば、その基準にあわないことは排除され、否定されてしまう。貴重な文化財を守り、その歴史的な意義を明らかにしたとしても、それでは直ちにお金は稼げない。むしろ費用ばかりかかる。だから学芸員は無駄飯食らいだと考えているのだろう。同じように人文系の研究者も学部教育も無用の長物と捉えられていくようだ。

しかし、金儲けにつながる研究や学問を軽視すると、私

たちの住んでいる世界の長期的な発展は望めない。

この世界は専門性の高い人たちが支えとなって成り立っている。医者にしても、科学者にしても、芸術家にしても、文学者にしても、それぞれが私たちの生活を安心で安全に、そして豊かにするために貢献している。それだけでなく、すべての職業人が、それぞれの仕事に誇りを持って、その仕事の専門家として私たちの日常生活を支え、活気あるものになっている。

専門家だから信頼され、尊重される。彼らの活動の中から、将来のエネルギー源が見つかり、地球環境問題の解決の糸口が見つかるとも期待されている。それらの専門的な研究も、当面は金儲けにはつながらない。

研究活動や学問の発展が目先



失言を追及された山本幸三地方創生相
= 4月17日午後

の利益追求を優先したものに偏らないよう、「ゆがみ」を正すのが、政府ではないか。その責任ある立場の人たちが、利益優先の発想にとどまりとつかった発言を繰り返している。それでは、何のための政府だろう。

政治家は、企業利害の代弁者ではない。長期的な視点をもち、さまざまな利害の調整ができる広い視野をもつことが求められる。政治家の職業としての専門性は、このような点にある。それを自覚しない人たちに、専門家の重要性を説くのはもともと無理な相談なのだろうか。

(東京大名誉教授 武田 晴人)